



備える

人生のエンディング⑦ 遺品整理

私たちはたくさんもの
に囲まれて暮らしていま
す。でもこの世から旅立つ
時、持っていかれるものはあ
りません。形見分けされる
のもごくわずか。片づけは
だれかにお願ひしなけれ
ばなりません。「天国への
お引越し」を考えまし
た。

ちり紙の束から空き瓶、
新聞の切り抜きまで「いつ
か使おう」と思ったもの
が戸棚に整理されている。
本棚は「いつか行こう」と
いう思いが伝わる旅行雑誌
がぎっしり。7時間後、部
屋を空にして作業を終え
た。

東京都内の2DKのマン
ション。80歳代で亡くなっ
た一人暮らしの男性は段ボ
ール80箱分のもと書籍、
そして家具を残していた。
遺品整理の専門業者、キ
ーパース(本社・愛知県刈
谷市)のスタッフ4人が午
前11時に到着。すでに遺族
は貴重品や形見分け品のえ
り分けを終えていた。

遺族が支払う料金は通常
2DKで35万円程度。今回
は量が多く、エレベーター
なしの建物4階から搬出と
いう事情も重なり約50万円
になった。遺品は業者が1
万円を目安に買い取るか
たちにする。
遺品整理を「処分」では
なく「天国へのお引越
し」ととらえ年間2千件近
くを手がけるキーパース。
吉田大一社長によると、親
族が遠く離れて暮らすよう

持ち物始末する努力を

になり、「遺品整理のため
に何日も仕事を休めない」
という遺族側の事情が必要
をつくり出したという。
「生きている間に自分の遺
品整理を頼んでおきたい」
という依頼も、これまで1
00件前後受けている。
生前に少しずつ身辺を整
理し、必要かつ十分なもの
だけで暮らすのは理想。だ
が、ものない時代に育
ち、「まだ使える。いつか
使う。もったいない」とい
う考えが身についた世代に
はなかなか難しい。
「どんなに大事にしてい
たものでも、あなたが死ぬ
ばみんなゴミ」。こう言い
切るのは消費行動研究家の
辰巳渚さん。「捨てる
！技術」の著者だ。「自
分が大切に思っているもの
を大切にできるのは自分だ
け。それを捨てるのは、も
の命を全うさせ、大切に
する行為の一つなんです」

業者に仕分け頼む方法も

と説く。「この考えに魂の
レベルで納得しなくても、
『子どもや親しい友人に、
あなたの写真や着物などを
捨てさせる、つらい作業を
させていいんですか』と発
想してみてください」
ものを減らす時、「だれ
かに使ってもらえる」と考
えれば気は楽だ。だが、慈
善団体などへの寄付には気
をつけるべきことがある。
アルコール依存症者の社
会復帰を支援して40年近い
救世軍男子社会奉仕センタ
ー(東京都杉並区)は寄贈
品のバザーによる収入を活
動費にあてている。「善意
の寄贈品でも、販売できな
いものは処分せざるをえな
い。その費用が売り上げの
3割にもなるのです」と藤
井健次施設長は明かす。
例えば、シミがついた衣
服。「まだ使える」かもし
れないが、売りものにはな
らない。自分では上手に始
末したつもりで、他人に迷
惑をかけるのは避けたい。
(浜田陽太郎)

遺品整理はこう進む

遺族が整理

- 金銭・有価証券類、形見分け品をえり分ける
- それ以外の片づけは不要
- 不要品をまとめる場合、ライターやマッチ、スプレー缶、食品、液体の入った容器は、他のものと交ぜない

見積もり

- 費用は、2DKだと、2トン車1台分(段ボール箱40~50個相当+家財道具)で35万円前後が目安
- 業者へ遺品を売却する契約を結び
- 新しい家具や家電などは個別に買い取りも可

整理作業

- 作業員が貴重品や形見分け品の見落としがないか確認しながら段ボール箱に詰める
- 通常なら作業は1日以内。遺品が多い場合は数日間にもわたることも

遺品の行き先

- 形見分け品は送り先に運搬
- 人形などは僧侶による合同供養を依頼できる
- リユース・リサイクル品として販売・寄贈も
- 他は正規廃棄物業者へ引き渡し、破碎後、埋め立てや焼却



〈専門業者に頼む場合。キーパース(0120・754・070)の作業手順書などから〉

リサイクル・寄贈したい場合の持ち込み先の例

- 書籍** ブックオフ <http://www.bookoff.co.jp/> 電話0570-01-2902(午前10時~午後6時半、値段がつかない場合は古紙として引き取り)
- 物品** 救世軍男子社会奉仕センター 電話03-3384-3769 (月・火・木・金曜日、午前9時~午後4時、バザーで販売可能な品物のみ、酒類厳禁)
- 衣料** 日本救済衣料センター <http://www.jrcc.or.jp> 電話06-6271-4021(月~金、午前10時~午後5時、海外輸送費は別途負担)

グラフィック 郭溢 / The Asahi Shimbun

私の場合

■大変だった両親の死後 去年父を亡くし、今年母も他界した。2人とも入院先で息を引き取ったが、元気で自宅に戻ってこられると思っていたらしい。母の洋服やバッグ、靴は山積みで、押し入れもぎっしり。父は金融商品に手を出していて、株や外債の確認など、遺品整理をしなければならぬ私にはやっかいなことばかりだった。持ち家も更地にできず、今も手つかずで多くの遺品が入ったままの空き家になっている。これからは、葬儀代のみ残り、家も処分して、持ち物を少しずつ捨てていくことが、残された者への気遣いかなと思う。(京都府 主婦 52歳)

■還暦超えたら3点を実行 3年前に旅立った義母は、古い大きな家に大量の不用品を残した。冷凍した食品が詰まった冷蔵庫が3台、大量の梅干し、食器……。処分に苦労した身として、還暦を超えたら次の3点を必ず実行するよう提唱したい。①食べる物以外の買い物を慎もう②昔の物はどんどん捨てていこう③遺品整理と約3年分ぐらいの仏事の費用、数年分の固定資産税を払うためのお金を残そう、ということだ。「終わり良ければ……」と考えるなら、とにもかくにも、次の代に迷惑をかけないことに尽きるのである。(山口県 女性 67歳)